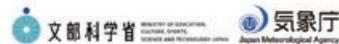


このコーナーでは、市の環境に関する取り組みや、暮らしに役立つ情報を紹介します。

※Sustainaには、「持続可能な～」という意味を込めています。

脱炭素社会実現に向けて 〈環境負荷ゼロへの挑戦〉



※黄色は2°C上昇シナリオ (RCP2.6)、紫色は4°C上昇シナリオ (RCP8.5) による予測

1. 台風の増加等の気候変動について

気象庁の資料によると、台風の発生率や日本への上陸率は、長期的な変化傾向はみられていませんが、以下のような変化は観測されています。

- ・大雨の年間発生回数は、**1980年頃と比較して、概ね2倍程度**に増加
- ・雨の降る日は有意に減少
- ・オホーツク海、北極海域の海水の減少
- ・海面水位の上昇

出典：文部科学省及び気象庁「日本の気候変動2020—大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書—」(概要版)

将来予測まとめ

21世紀末の日本は、20世紀末と比べ...

年平均気温が約1.4°C/約4.5°C上昇

海面水温が約1.14°C/約3.58°C上昇



猛暑日や熱帯夜はますます増加し、冬日は減少する。



温まりやすい陸地に近いため暖流の影響で、予測される上昇量は世界平均よりも大きい。

降雪・積雪は減少



雪ではなく雨が降る。ただし大雪のリスクが低下するとは限らない。



激しい雨が増える

日降水量の年最大値は約12% (約15 mm) / 約27% (約33 mm) 増加
50 mm/h以上の雨の頻度は約1.6倍/約2.3倍に増加

沿岸の海面水位が約0.39 m/約0.71 m上昇



3月のオホーツク海海面積は約28%/約70%減少



【参考】4°C上昇シナリオ (RCP8.5) では、21世紀半ばには夏季に北極海の海水がほとんど融解すると予測されている。



強い台風の割合が増加
台風に伴う雨と風は強まる

日本南方や沖縄周辺において世界平均と同程度の速度で海洋酸性化が進行



※この資料において将来予測は、特段の説明がない限り、日本全国について、21世紀末時点の予測を20世紀末又は現在と比較したものである。

2. 地域課題と脱炭素

脱炭素は、市民の皆さんの負担を伴うものもありますが、一方で以下のようなメリットもあります。

- ①新しい雇用、再エネに伴う地域経済活性化による地域ビジネスの創生
- ②省エネやカーシェアなどによる使用電力の節約、断熱性能の高い家の推進による快適な暮らしの実現 (ヒートショックや熱中症予防)
- ③台風や地震等で停電しない、災害時も安心できる地域づくり



お知らせ

8月は、経済産業省主唱の「電気使用安全月間」です。コードが下敷きになっていたり、プラグにほこりが溜まっていたりしませんか? 定期的を確認し、火災や事故を防ぎましょう。また、電気を正しく使うことは、ECOにもつながります。

○節電の主なポイント○

- ①冷房時の室温は28°Cを目安に設定し、体感温度を服装で調整
- ②照明はこまめに消灯を
- ③冷蔵庫のドアの開閉は、回数も時間も少なめに



出典：(一財) 関東電気保安協会